

共生社会の実現を目指して ～富山型地域総合福祉の推進～

1. はじめに

わが国の人口は、平成16年にピークを迎え、その後、減少傾向が続いており、本格的な人口減少社会に突入しています。今後、さらに、人口減少と高齢化が進み、およそ20年後から25年後の間には、3人に1人が高齢者となる時代が到来すると見込まれています。

一方、富山県の人口は平成10年をピークに減少するとともに、およそ15年後には高齢者の数が3人に1人超えると見込まれるなど、全国を上回るペースで高齢化が進んでいます。

このように、本格的な少子高齢化・人口減少社会に突入するなか、本県では、高齢者、障害者、子どもなど、県民だれもが住み慣れた地域でいきいきと健康に生活でき、共に支え合う「共生社会」の実現～富山型地域総合福祉の推進～に全力を尽くしているところです。

2. 富山県民福祉条例

富山県では、平成8年9月に、福祉の総合的な推進を図る条例としては全国初となる「富山県民福祉条例」を制定しました。

この条例の主な特色は3点あります。

1点目は、ハードとソフトの両面を備えた総合的な福祉条例であるということです。当時、ハード面の整備に関する条例はいくつかの自治体で制

定されていましたが、本県ではこれに、多様な福祉サービスの提供体制整備や高齢者、障害者等の社会参加の促進といったソフト面の視点も加味し、総合的な条例としています。

2点目は、すべての県民を対象とし、利用者本位を打ち出した条例であるということです。高齢者や障害者ばかりでなく、すべての県民を福祉の対象者・参加者として意識するとともに、福祉施策に利用者本位の視点を取り入れる方針を示しています。

3点目は、アンケート、文書による意見の受け付けや審議会等の活用だけでなく、各種団体や一般県民の意見を直接聞いて策定した条例であるということです。この手法は、その後の本県の条例・プラン策定の一つのモデルになっています。

3. 富山型地域総合福祉の推進（ハード）

平成11年11月にオープンした「富山県総合福祉会館（サンシップとやま）」では、富山型地域総合福祉の拠点施設として、ボランティア活動の振興や福祉を担う人材育成、福祉相談などを行っているほか、高齢者、障害者、児童などの福祉関連団体がまとまって入居し、連携をとりながらさまざまな活動を展開しています。

また、最近では、平成21年3月に、県東部の障害児支援の中核施設である「県立黒部学園」が竣

富山県知事 **いし い 石 井** **たか かず 隆 一**



工しました。この施設では、全国有数のユニットケアを行うため、子どもたち一人ひとりの特徴に応じた支援を可能にする、とともにできるだけ家庭に近い環境のなか、子どもたちが自分の力で身の回りのことを行えるよう、さまざまな工夫を凝らしています。このような点が評価され、平成21年12月には、中部建築賞を受賞したところです。

4. 富山型地域総合福祉の推進（ソフト）

富山県が全国に誇る福祉サービスとして、「富山型デイサービス」があげられます。

「富山型デイサービス」は、高齢者、子ども、障害者などが、障害の有無や年齢にかかわらず、誰もが一緒に住み慣れた地域でサービスを受けることができる仕組みであり、平成5年、富山市の「このゆびとーまれ」が全国に先駆けて取り組みました。

民家を使い、家庭的な雰囲気のもと、対象者を限定せずにサービスを提供するこの形態は、既存の縦割り制度にはない柔軟なサービスとして、全国的に注目を集めています。

こうしたサービスは、高齢者にとっては、子どもや障害者との共生が刺激と生活の安心を与える介護予防の効果、子どもにとっては、他人への思いやりや優しさを身に付ける教育面での効果、障害者にとっては、自分なりの役割を見出す自立支

援の効果があるとされており、県としても、施設整備、起業家育成、職員研修などに対して積極的な支援を行っています。

5. おわりに

近年、少子・高齢化の進展に加え、世帯の小規模化が進行し、これまで家族で担われてきた介護や子育て機能が弱体化しています。また、「人と人とのつながり」が希薄化し、地域における支え合い機能の低下が懸念されています。

こうしたなか、3月に発生した東日本大震災は、人と人との絆や地域の支え合いがいかに大切か、ふるさといかに尊いものかを改めて考えさせられる機会となりました。

幸い、本県では、老人クラブの加入率が全国トップであること、高齢者と同居している世帯の割合が4割を超え、全国平均に比べて高くなっていること、お祭りなどの地域文化も相当に継承されていることなど、地域の連帯感が強く、住民相互の助け合い精神が脈々と受け継がれています。

今後とも、こうした、本県の特徴を活かしながら、地域ぐるみで支え合う福祉コミュニティの形成に取り組み、男性も女性も、高齢者も若者も、一人ひとりが将来への夢と希望を持っていきいきと働き、安心して暮らせる「元氣とやま」を創っていきいたいと考えています。